

#### 4 簡易車両消毒装置と防疫バッグを活用した 農場バイオセキュリティ向上への新たな取り組み

南丹家畜保健衛生所  
○八谷 純一 塚本 智子

【はじめに】口蹄疫等海外悪性伝染病の侵入リスクが高まる中、農場への病原体の侵入、まん延防止措置の重要度は増大。そこで、当所で開発した水道直結型車両消毒装置（以下、消毒装置）と防疫バッグを活用して農場バイオセキュリティ向上に取り組んだ。【材料及び方法】飼養衛生管理チェック表を用いて現状分析したところ、偶蹄類農場では平成23年と比較し各項目は向上。一方で、立地条件やコストの問題から①車両消毒装置の設置②埋却地の確保の2項目の達成率の伸び悩みが課題と確認。そこで動力やスペースを要しない消毒装置を開発し、モデル農場で実用性を確認するとともに、埋却地の確保が困難な農場でも迅速に病原体拡散防止措置が完了するよう防疫バッグを活用した防疫計画を策定。【結果】①について、未達農場のうち11戸をモデル農場として、消毒装置を設置。その後のアンケート結果により全てのモデル農場で実用性と継続利用の意志を確認。達成率は75.4%から94.5%に上昇。②については防疫バッグ及び移動式レンダリング装置を活用した防疫計画を策定、達成率は88.5%から100%に向上。【まとめ】農場バイオセキュリティは施設や立地条件、飼養管理方法等に応じた対応が重要。衛生レベル及び生産性の向上のため、モデル農場の取組も活用し、各戸に応じた提案を継続したい。